

～ 岩手 被災地ボランティア活動 ～

【第3期第7陣】1月28日～2月3日 支所職員など8名(内よどがわ生協の方3名・ならコープの方1名)

池澤さん(共済)、峯野さん(検査室)、竹瀬さん(ベジタブルセンター)、加藤さん(よどがわ生協)、梅田さん(よどがわ生協)、武藤さん(よどがわ生協)、中野さん(ならコープ)、立石さん

大槌町おさなご幼稚園におもちゃを届けました。園長先生は「毎月1回避難訓練をしていた。自分も生まれた年に津波があったことを聞いていてまさかと思いました」と。常日ごろから思いもよらないことを想定しみんなで共有することは大事だと思いました。主任の方からは「台所セットは生協さんならではのくらしの実感をわかってくれている物品と感謝し、今も使っています。言葉を送りました。」  
 1月31日 理事会室 立石さん



左端：武藤さん、後列中央左：梅田さん、後列中央右：立石さん、後列右端：池澤さん

【第3期第8陣】2月4日～10日 支所職員など5名(内よどがわ生協の方2名)

亀田さん(システム経理)、山内さん(ベジタブルセンター)、高岡さん(よどがわ生協)、石川さん(よどがわ生協)、盛山さん



担当 盛山さん

陸前高田市で洗剤などの物資をお渡しした後、集会室でお茶やお漬物をご馳走になりました。上くなった娘さんの写真などを見せながら明るく話しておられました。胸がつつまなくても見れないとお聴きました。



NO.12

被災者に寄り添い、絆をつなげる支援活動を

被災地では「もうすぐ3月11日」が来る。気温や日の長さで、あの時の空気を肌で感じる・・・と話して下さる方がおられ、ボランティアメンバーも合掌、祈りの気持ちを改めて持たずにおられない場が多くなっています。

同時に、仮設住宅のあちらこちらで、大工仕事が得意なお父さん、手仕事が好きなお母さんたちが、室内の棚の取り付けや手芸用品など、「自分のできることでまわりの人に喜んでもらえることが励みになる・・・」と、新しいコミュニティが少しずつ広がってきています。

これからは生業再開や新しい住まいなど、個人の方だけでは解決できない大きな問題(行政がなすべきこと)と併せ、地元の方々を持つマンパワーを宝にボランティアがお手伝いしていく。そんな共助の姿を描いて、ボランティア活動2年目に入る「まごころネット」に加わり、活動させていただいています。

<3月5日現在> (NPO遠野まごころネットに常駐する

パルコープボランティア事務局・林さんより)

生々しさが伝わる光景が目立ちました

パルコープからの職員ボランティアは昨年5月から3月16日までで合計40陣(のべ368名)になりました。今年の職員によるボランティア支援は、いったん3月16日で終了しました。今後はボランティアパスを中心とした新たな支援活動をすすめていき、「引き継ぎ」はるタイム」で中面に報告します。

生産者さん おじゃまして～す

組合員さんがコメント書いて返してくれるやろ。嬉しいなあ、作りがいがあるよ

「産直一株トマト」～紀ノ川農協～

紀の川市の隣町、和歌山県岩出市。ここにも紀ノ川農協の「産直一株トマト」を作る生産者が多くおられます。

「夫婦で一株トマトを作った出荷する、もとは農協職員だった久保さん。」  
 「この辺では「トマトは良いよ」と声かけられて10軒くらい農家がキュウリからトマトに変わって共同で苗を作ったり教えてもらったりしながらトマト作ってるのよ。お父さんが朝早く収穫してききたトマトを、グラム数に合わせて出荷の準備をするのが私の仕事。トマトは表面にアクがついてるので、ちよっと拭きながら入れてますよ(信子さん)」  
 「日照が良いと赤くなって糖度も上

※トマト表面のアク：  
 トマトが自身を保護するために出す水溶性の成分



「グラム数を合わせるのもむずかしいね」  
 信子さん

産直 一株トマト



※写真は750g分(個数は決まっています。サイズは不揃いになります)

予約注文は 今後の共同購入カタログをご覧ください	
お届けは	
5kg 8週コース…6月1回～	
(500gの場合)	208円
(750gの場合)	312円
4kg 6週コース…6月2回～	
(500gの場合)	231円
(750gの場合)	347円



久保晴嗣さん

がってくるんだ。苗を植える間隔によって枝の出方が違って実がつく数が違うけど、玉の大きさによって収量がかわってくる。トマトは農業の技術の全てのことに関係してくるから、作って毎年難しいなあ。一株トマトは、袋に生産者カードが入って生協の組合員さんがコメント書いて返してくれるやろ。あれが嬉しいなあ、作りがいがあるよ(晴嗣さん)

ど良い頃の実を収穫して、予約された組合員さんに毎週お届けする仕組みですが、6週・8週と長期間に渡るので毎年の天候の違いの影響を受けがち。うまくタイミングで成長していかなければ、量が足りなかったり余ってきたり。そんな中でも、実の状態をどの生産者もある程度揃えてお届けするために、目あわせ会を期間中に何回も行って、より良いトマトを出荷していることになっていきます。



生協組合員さんにお届け頃にちょうど良いように、過熟(かじゅく)や青残り部分の量の基準を確認しています。